

日本語ジェンダー学会基調講演

2002年3月23日

言語とジェンダー研究

中村桃子氏

今日のポイント

- 1 私たちは互いにことばを使って関わり合う中で多様なジェンダー・アイデンティティーを能動的に作り上げている。
- 2 その時、性についてこれまで歴史的に「語られてきたこと」から作られたジェンダー・イデオロギーから制限を受けたり、それを利用したりしている。
- 3 私たちが多様なジェンダーアイデンティティーを作り上げることは、今あるジェンダー・イデオロギーを再生産すると同時に、それを変革する場合もある。

I. 「ジェンダー」概念の変遷

- 1 セックス (生物学的性別) とジェンダー (社会・文化的性役割)
マナー他(1979)『性の署名』人文書院

2 本質主義のジェンダー

上野千鶴子(1995)「差異の政治学」『現代社会学 1 1 ジェンダーの社会学』
岩波書店

3 構築主義のジェンダー：ジェンダー・アイデンティティー

Burr, Vivian (1995) *An Introduction to Social Constructionism*.

Routledge. 邦訳有り

ジュディス・バトラー(1999)『ジェンダー・トラブル』青土社

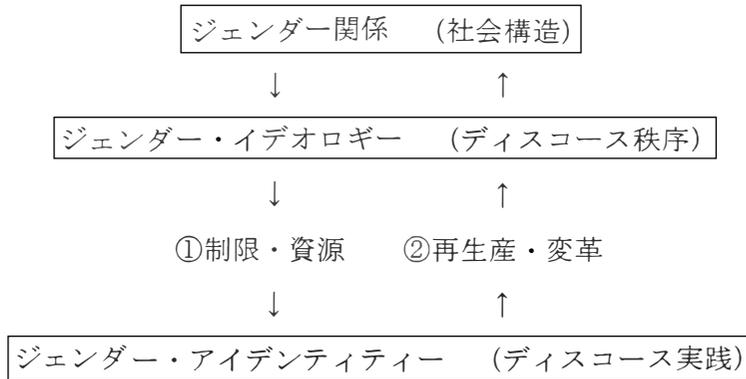
上野千鶴子編(2001)『構築主義とは何か』勁草書房

→二項対立ジェンダーと「女」という集団の否定

4 構築主義の問題点→ジェンダー・イデオロギーの導入

II. 様々な「ディスコース」概念：ディスコース実践とディスコース秩序

III. 「言語とジェンダー研究」のダイナミックモデル



詳しくは、中村桃子(1995)『ことばとフェミニズム』勁草書房
7 「女ことば」とは、ジェンダー・イデオロギーの言語版である。

本田和子(1990)『女学生の系譜』青土社

遠藤織枝(1997)『女のことばの文化史』学陽書房